

特別展

「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館」
Attic Museum
日本銀行総裁、大蔵大臣を歴任した渋沢敬三はまた、邸内に私設博物館兼研究所を設立した民俗学者でもありました。本展では、渋沢敬三の経歴と民俗学研究を紹介します。
会期 9月19日(木)～12月3日(火)
会場 特別展示館

■関連イベント

◆公開シンポジウム
「渋沢敬三を語る——偉大なる学問の庇護者」
井上潤(渋沢史料館館長)
内田幸彦(埼玉県立歴史と民俗の博物館 主任学芸員)
武田晴人(東京大学大学院教授)
宮本瑞夫(宮本記念財団理事長)
久保正敏(本館教授)
日時 10月13日(日)
13時30分～16時30分(13時開場)
会場 講堂(定員450名)
※申込不要、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

企画展
「武器をアートに」
モザンビークでは、内戦終結後に回収した武器でアートの作品を作りだすという事業が進んでいます。アートを通して平和を築く営みを紹介します。
会期 11月5日(火)まで
会場 企画展示場B

企画展
「台湾平埔族の歴史と文化」
台湾の平埔族の人ひとが歴史資料、博物館資料をてがかりに、民族のアイデンティティを再構築していくようすを紹介します。国立台湾歴史博物館との国際連携展示です。
会期 9月12日(木)～11月26日(火)
会場 企画展示場A

みんなくワールドシネマ
「再会の食卓」
歴史的・政治的状況の中で離散していた家族の、長年を経た再会のドラマを通して、現代社会の中で離れて生活をしていかざるをえない家族のゆくえを、皆さんとともに考えていきます。
日時 9月15日(日)
13時30分～16時(13時開場)
会場 講堂(先着450名)
※申込不要、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

研究公演
「共振する大地のリズム——ブルキナファソ・カバコと佐渡・春日鬼組の競演」
ブルキナファソのグワンの人ひととの間に継承される葬送儀礼の楽士として育ったバラフォン奏者ムッサ・ヘマ率いるグループ「カバコ」と、佐渡「春日鬼組」の競演を通じて、大地と生活に密着して生み出される音の世界を体験できます。
日時 11月3日(日・祝)
13時30分～15時30分(13時開場)

会場 講堂(先着450名)
申込締切 10月10日(木) 必着
※事前申込制、参加無料
みんなくxMBSラジオ presents
「行つて！わかった！
これがびびくりリアル世界だ。」
「60日間ほほ世界一周」河田直也さん(MBSアナウンサー)と、「狩猟採集民をおつて世界をめぐる」本館教授池谷和信によるトークイベントです。司会は、古川圭子さん(MBSアナウンサー)です。
日時 9月16日(月・祝)
13時30分～14時30分(13時開場)
会場 講堂(定員450名)
※申込不要、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

みんなく手話言語学フェスタ2013
◆語順と数に関する国際ワークショップ
日時 9月27日(金) 9時20分～18時
会場 第4・5セミナー室(定員80名)
※事前申込制、参加無料
◆言語の記述に関する国際ワークショップ
日時 9月28日(土) 9時～12時45分
会場 第4セミナー室(定員80名)
※事前申込制、参加無料
◆みんなく映画会
「白塔」
ふたりのろう者の恋愛から結婚を描いた本作品は、私たちに等しく与えられたコミュニケーションという日常の営みを映し出しています。上映を通じて、ろう者側からみた手話や社会について考えます。
日時 9月28日(土)
13時30分～16時45分(13時開場)
会場 講堂(定員450名)
※申込不要、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

◆手話言語と音声言語についての国際シンポジウム(2)
「言語の語順と文構造」

日時 9月29日(日) 9時～17時
会場 講堂(定員450名)
※事前申込制、参加無料
●無料観覧日のお知らせ
9月14日(土)は万国博覧会閉幕記念のため、9月16日(月・祝)は敬老の日のため、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし16日については自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要です。※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時から17時(土日祝を除く)です。

訃報 近藤雅樹教授

みんなくの近藤雅樹教授が、本年八月三日に急逝されました。近藤教授は、民俗学者・宮本常一の高弟として民俗学研究の王道を歩み、一九九〇年三月にみんなくが就任して二〇〇年余、一貫して日本研究、民具研究、物質文化研究を主導するとともに、渋沢敬三の民俗学に傾倒し、みんなくの基礎資料であるアチックミュージアム・コレクションの整理・分析に邁進してこられました。その総決算として心血をそそいだ特別展「屋根裏部屋の博物館」実現という遺志を生かすべく、みんなくが一九九〇年となって準備を進めております。なお、関連催し物の一部についての余儀ない変更をあらかじめお断りいたします。近藤教授は、本誌の編集委員を長年勤め、味わい深い記事を連載するなど、本誌にも多大な貢献をいただきました。あらためて感謝するとともに、深く哀悼の意を表する次第です。

みんなくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)
第424回 9月21日(土)

【特別展開連】
屋根裏部屋博物館主人の横顔
講師 飯田卓(国立民族学博物館 准教授)
木村裕樹(龍谷大学 非常勤講師)
永井美穂(渋沢史料館学芸員)



青年時代に友人たちと一緒にコレクションを持ち寄り、ガレージの屋根裏で博物館づくりをしていたのが渋沢敬三でした。生物学者になるのが夢でした。長じてからは邸内に本格的な博物館兼研究所を建て、若い研究者たちの育成にも心を砕いた渋沢の一面についてお話しします。

第425回 10月19日(土)
【企画展開連】
心の武装解除——モザンビーク「武器をアートに」プロジェクトを考える
講師 吉田憲司(国立民族学博物館 教授)



アフリカのモザンビークでは、内戦終結後も大量の武器が民間に残されました。その武器を農具や自転車と交換して回収し、武装解除をはかることに、回収した武器を素材にアートの作品を生み出して、平和を人々の心に定着させようというプロジェクトが進められています。そのプロジェクト「銃を鍛え」の意義を考えます。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)
第424回 10月5日(土) 14時～15時
【特別展開連】
渋沢敬三の「民具」へのこだわり
講師 小島摩文(鹿児島純心女子大学教授)
アチックミュージアムの設立者、渋沢敬三は日本銀行総裁や大蔵大臣をつとめる一方、膨大な量の民俗資料を収集し、毎朝、出勤前の2時間を民俗学の研究にあてるなど、地道な研究をおこなう学者、文化人としても熱心に活動していました。民具という考え方を提唱したのも渋沢敬三でした。彼がそれほどまでに民俗学に傾倒した事情や社会的背景などについてお話しします。
第425回 11月2日(土) 14時～15時
くすりの民族学
講師 小山修三(千里文化財団理事長)
国立民族学博物館 名誉教授

第67回体験セミナー
ニッポンの漆を考える
——世界最古の漆発見の地・鳥浜貝塚と越前漆器
訪問先・若狭三方縄文博物館、片山漆器神社、うるしの里会館ほか
第83回民族学研修の旅
ベトナム西北部 少数民族の世界へ
11月21日(木)～29日(金) 9日間
訪問先・ベトナム(ハノイ、マイチャウ、ソンラー、サパ)少数民族の村の訪問や市場めぐり、高床式の民家での宿泊も予定しています。
※体験セミナー、民族学研修の旅ともに詳細は上記友の会までお訪ねください。

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

中国上海の「金山農民画」

今回は、中国上海の農民たちが一枚一枚手で描いた小さな民間芸術「金山農民画」をご紹介します。農民画の起源は人民公社時代の農業振興や新技術の広報普及を目的としたポスターで、1950年代の陝西省ではじまりました。1970年代に上海近郊にある農村、金山で、それまでのスタイルを刷新し、中国刺繍の色使い、伝統的な切り絵をベースに、立体感を排除した平面的な構成を取り入れるようになりまし。



金山農民画
小(22×22cm) 6,090円
大(37×37cm) 8,400円
※サイズは額装を含めたもの

価格はすべて税込